

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービスととと		
○保護者評価実施期間	2024年12月16日		～ 2025年1月15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	42	(回答者数) 19
○従業者評価実施期間	2024年12月16日		～ 2025年1月15日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	2025年1月21日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	事業所のIT化が進んでおり、児童管理や請求業務、勤怠管理等、すべてパソコン・タブレットで行っており標準化されている。当然、連絡帳なども独自のシステムで保護者へオンラインで提供している。	連絡確認のサイン等もオンライン化されている。活動記録などもタイムラグ無く保護者が確認することができる。	保護者へも概ね好評であり、手持ちのスマートフォンなどで気軽に連絡もできる。LINE等のフリーソフト等を使用せず、セキュリティにも気を遣っている。
2	職員も日常的に業務でパソコン、タブレットに触れているだけでなく、利用者においてもタブレット学習等積極的に行っている。	タブレット学習では、利用者の特性が数値化されて評価できるシステムを導入しており、日々の療育にも生かされている。	利用実績をさらに増やし継続的に療育に活かす。
3	公認心理師2名、うち1名は臨床心理士・精神保健福祉士所有者。もう1名は作業療法士である。両名による身体的、精神的なアプローチが可能。	利用者にごまめに個別面談等を行い、細かく困りごとなどの拾い出しをおこなっている。	課題が表面化した後、どのような対応により療育に活かせるかを検討する。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	第三者による外部評価がおこなわれていない。	今後運営者から鹿児島県へ問い合わせをする。	この部分における運営者の意識が低い。
2	利用者の要因の一つとして、家庭環境がある場合の対処。	関係各所と積極的な情報の共有。	
3			